

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2375300288		
法人名	医療法人 ふなびきクリニック		
事業所名	グループホーム ほほえみ扶桑		
所在地	丹羽郡扶桑町大字南山名字本郷289番地 (電話) 0587-92-4483		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年9月20日	評価確定日	平成19年11月9日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年1月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 8人, 非常勤 8人, 常勤換算 4.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30日: 51,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
	31日: 52,700 円		
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 有りの場合 無 償却の有無		有 / 無
食材料費	朝食	380 円	昼食 550 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年9月1日現在)

利用者人数	17名	男性 4名	女性 13名
要介護1	4名	要介護2	4名
要介護3	1名	要介護4	5名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 84歳	最低 55歳	最高 95歳
協力医療機関名	医療法人 ふなびきクリニック		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはのどかな田園風景が広がる土地にあり、淡いピンクの色調の建物は周りの景観に溶け込んでいる。玄関周りには花や観葉植物が置かれ、水槽にはメダカが飼育されている。玄関には「おかえりなさい」と書かれた木札が飾られ、明るく家庭的な雰囲気の中で、入居者一人ひとりがその人らしく明るく、楽しく、元気に過ごしてもらえるよう職員はケアに努めている。母体が病院であり、主治医や認知症専門医との連携ができており、医療面での支援が充実していることから入居者、家族、職員の安心につながっている。ホームで培っている認知症ケアを地域に還元し、地域の中に自然に溶け込めるよう取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>入浴はゆっくり入ってもらいたいとの考えから、1人30分くらい午前中に入浴している。1日3名の入浴で、3日に1回としている。時間帯は希望があれば午後から入浴することも可能である。将来的には週3回にしていきたいと考えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価について職員一人ひとりに伝え、全職員が自己評価に取り組み、管理者が取りまとめた。また、ホーム独自の自己評価、接遇チェックを月1回実施しており、日々のケアに活かしている。課題については随時話し合い、検討している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2カ月に1回、入居者、入居者家族、南山名区長、扶桑町役場介護保険課職員、法人役員の参加のもと開催している。毎回、ゲストを招き講演をお願いしている。講師として警察署や消防署、保健所等の協力をいただいている。会議では、ホームの行事や取り組みについて報告し、意見、要望等についても討議している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に意見箱を設置しているが、家族は直接管理者に話すことが多い。今年から家族会を年4回実施しており、家族会や運営推進会議、面会時など意見を傾聴する機会を設け、要望、苦情等の対応をしている。また、苦情相談機関としてホーム担当者以外に市町村の相談窓口が重要事項説明書に明示されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会しており、会合に出席したり、納涼祭や神社の祭り等、地域行事に積極的に参加している。町内会の運動会には、ブースをもらい、入居者の作品が展示された。自治会長や区長を通じて情報交換され、ホームに対する理解や協力が得られ良好な関係が築かれている。近隣の方とは、散歩時に挨拶を交わしたり会話を楽しんでいる。野菜やお花をいただくこともある。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年、理念を新しく作成した。日頃、職員の顔が明るく笑顔があれば、入居者、家族も笑顔になれるとの思いから「地域の中に根ざしご近所付き合いを大切にしながら楽しく元気よく一人一人が自分らしく生活できる場所（家）」を理念としている。自治会との連携が密にとられ、地域の一人としてホームで培っている認知症ケアを地域に還元し、地域の中に自然に溶け込めるよう取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	誰にでも見やすいように理念は玄関に掲示してある。出勤時に職員は、入居者一人ひとりに声をかけている。入居者が1日1回は笑顔になれるように、職員は明るく笑顔で傾聴するよう心がけている。それにより、職員同士の声かけも多くなり、笑顔が増えた。管理者と職員は常に理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、会合に出席したり、納涼祭や神社の祭り等、地域行事に積極的に参加している。町内会の運動会には、ブースをもらい、入居者の作品が展示された。自治会長や区長を通じて情報交換され、ホームに対する理解や協力が得られ良好な関係が築かれている。近隣の方とは、散歩時に挨拶を交わしたり会話を楽しんでいる。野菜やお花をいただくこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価について職員一人ひとりに伝え、全職員が自己評価に取り組み、管理者が取りまとめた。また、ホーム独自の自己評価、接遇チェックを月1回実施しており、日々のケアに活かしている。課題については随時話し合い、検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回、入居者、入居者家族、南山名区長、扶桑町役場介護保険課職員、法人役員の参加のもと開催している。毎回、ゲストを招き講演をお願いしている。講師として警察署や消防署、保健所等の協力をいただいている。会議では、ホームの行事や取り組みについて報告し、意見、要望等についても討議している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>扶桑町の介護保険担当課には足をよく運び、相談にのってもらいアドバイスを頂く等、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には、声をかけ入居者の状況や様子を説明している。法人が発行している季刊誌「ほほえみ村」の他に月1回、入居者個人の便り「ほほえみ扶桑だより」を入居者、家族に配布している。便りには、担当職員によるコメントや行事予定、入居者の様子が写真入りで掲載されている。入居者に心身等状況変化があった場合は、来訪時以外にも連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しているが、家族は直接管理者に話すことが多い。今年から家族会を年4回実施しており、家族会や運営推進会議、面会時など意見を傾聴する機会を設け、要望、苦情等の対応をしている。また、苦情相談機関としてホーム担当者以外に市町村の相談窓口が重要事項説明書に明示されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員はユニットで固定し、担当制を設けているが、職員は2ユニット18名を意識してケアにあたるよう心がけている。1、2階合同で食事作りをしたり、行事等を行い交流を図っている。職員の勤務時間は希望の時間帯に働けるよう配慮されている。職員の離職により入居者にダメージがないよう、全職員が同じ対応ができるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が定期的に行われている。新人研修や実務研修等があり参加している。外部研修については、希望者は参加できる体制となっており、研修受講後はミーティングで報告し情報を共有している。また、ミーティングでは管理者が日常のケアで気付いた事などを課題にあげ、勉強会を実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会に加入しており、会議等に出席している。法人内では、月1回各部署のトップミーティングがあり業務報告がされている。見学会や研修等、法人内のグループホームとの関わりがある。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅や病院を訪問し、本人や家族の思いや状況を把握している。馴染みの関係ができるようホームの見学や行事の参加等を行っている。必要があれば他のサービス事業者との連携も図っている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	明るく、楽しく、元気に一人ひとりがその人らしく生活していただけるように、入居者本人ができる事は行ってもらい、できないところを職員は支援している。料理の味付けや言葉遣いなど、人生の先輩として教えていただき、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前に本人や家族から生活歴を把握し、職員全員に伝えている。入居者が1日1回は笑顔になれるように、職員は声かけを意識し、入居者とコミュニケーションをとり、言動や表情から本人の希望や要望を汲み取るよう支援している。入居者からも声かけがあり、職員も明るくなった。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントに基づき、入居者の情報を職員は把握している。介護計画は長期目標6カ月、短期目標3カ月とし、設定期間毎に見直しが行われている。家族の面会時に、会話の中から職員が要望や意見を聞き取り、介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>体調の変化やADL（日常生活動作）のレベルに低下が見られた入居者に対しては、日々様子を個別に記録している。家族に電話で報告し意見をうかがい介護計画を見直している。設定期間に満たなくても状態の変化が生じた場合や、病院から退院してきた場合には、随時新しい介護計画を作成している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>母体が病院であり、ホームの主治医でもある。週5日医師の往診があり、入居者は月4～5回診てもらっている。訪問リハビリも週2回実施している。介護タクシーや送迎支援等、入居者の体調に合わせた柔軟な支援が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>法人の病院には認知症専門医師が勤務しており、相談に応じている。主治医による週5回の往診があり、半年に1度の健康診断、3～4カ月に1回の血液検査が実施されている。家族には月1回、受診の報告をしている。入居者のかかりつけ医への受診には、ホームで送迎を行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>職員には体調の悪い方が出た時は慌てずゆっくり行動ができるように指導している。入居者や家族には、医療・重度化に向けての指針を説明し、入居時に署名捺印を得ている。主治医や看護師と24時間、連携体制が確立され、状況に応じて医療機関や施設等の紹介も行っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>管理者から言葉遣いについての指導が職員にされている。排泄に関する言葉かけには注意し、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握することで、本人の誇りやプライバシーを損ねないように努めている。個人情報に関しては同意書の中に利用目的が明記されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、疲れた時には部屋で休んだり、居室で食事を摂るなど、一人ひとりに合った対応をしている。入居者には、できることは自分で行ってもらい、職員は見守りながらの支援をしている。レクリエーションでは個別ケアが行なわれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を取り入れた食事を入居者と職員が和気あいあいと一緒に作っており、盛り付けや片付け等ではできる人が関わり、それぞれの力を発揮してもらっている。献立に関しては、入居者に事前にアンケートを取り、要望を取り入れながら対応している。食事中は誤嚥を防ぐため、職員は見守りに徹し、入居者と一緒に食事は摂っていない。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、入浴は週2～3回の午前中に実施している。入浴時間は1人30分程度で、時間をかけゆったり、のんびり楽しんでもらっている。希望があれば午後からの入浴も可能である。夏には、入浴日以外は清拭で対応している。1階の浴室からは中庭が見え、2階の浴室からは外の景色が見ることができる。		入浴回数の増回について、家族からの要望もあり、ホームとしても週3回入浴が可能になるよう検討していることから、実現に向けた取り組みに期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	中庭で家庭菜園をしており、入居者と職員と一緒に育てている。収穫を入居者は楽しみにしている。入居者の得意分野を発揮してもらい、洗濯物干しやたたみ、食事の準備、盛り付け等を行ってもらっている。散歩やショッピング、ドライブ等の外出も楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	喫茶店に交代で出かけモーニングを楽しんでいる。散歩に出かけた時は、地域の方より気軽に声をかけてもらっている。10月には「フラワーパーク江南」に出かける計画を立てている。外出することにより、いつもと違う入居者の表情や一面を知ることができる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠はしていない。ドアにベルを付け、音で人の動きを察知できるようにしている。交通事故防止と不審者の侵入防止の為、門には電子ロックによる施錠がしており、道路に出るワンクッションとなっている。中庭や門以外からも外に出ることができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>定期的に春と秋に避難訓練を実施している。近くに消防署があり、災害時には協力が得られるように働きかけをしている。非常用飲料、備品は3日分準備し、賞味期限が分かるように掲示してある。次年度からは自治会に書面にて参加や協力をお願いをする予定である。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>法人内には管理栄養士、栄養士が各1名ずつ配置されており、献立を作成している。個々の好みを入居時にアンケートで確認し、代替品の準備もしている。1日1,500kcalを目安とし、水分は1,000ccの摂取を目標とし、食事量についてチェックしている。入居者の状態に合わせ、ソフト食(刻み、ミキサー)や食欲のない人には総合栄養剤等を使用し対応している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアから自由に中庭やテラスに出られるようになっている。中庭で花を見ながら入居者と職員が会話やお茶を楽しんでいる。フロアには3帖程の畳の空間があり、洗濯物をたたんだり、お昼寝をしたり自由にくつろいでいる。壁には、入居者が毛筆で書いた作品が展示してある。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具等を持ち込んでもらっており、入居者の動線を考えて家族が家具の配置を決めている。衣替えは家族にお願いしている。季節に合わせ、室内の温度、湿度に配慮している。各居室の壁紙や床、ドアは、色や模様などそれぞれ異なったものが施され、同じ間取りであるが部屋の雰囲気それぞれ違っている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。